

---

# 魔王マオちゃんの勇者様観察記

雨永祭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔王マオちゃんの勇者様観察記

### 【Nコード】

N8285F

### 【作者名】

雨永祭

### 【あらすじ】

魔王のマオちゃんは勇者に一目惚れしてしまいました。寝ても覚めても頭の中は勇者のことばかり。あんまり好きになり過ぎて、マオちゃんは 愛の戦士 になったのです。そうして、マオちゃんは魔王の仕事を他人に押し付け、極めて常識的で善人な親友を巻き込み、勇者をストーキングする日々をはじめたのでした。

## （前書き）

謹賀新年です。

あけおめことよろ、と言うわけで、年が明けてしまいましたね。ところで、どの作品も中途半端ですが、いずれ、いずれ！完結させますので、生暖かい目で見守っていただけたら幸いです。

さて、この作品についてですが、完全に思いつきとノリだけで書きました。しかも、正月一切関係ありません。起承転結も何もあつたもんじゃありません。

それでも、短くはありますが、楽しんでもらえたら幸いです。

私の名前はマオ。両親曰わく、魔王だからマオだそうです。安直極まりないですけど、結構気に入ってます。

最近、好きな人と趣味が出来ました。

きっかけはアグムさんが持ってきた映像板。そこに移ったのは最近、勇者として名を馳せている青年、名前はアザミスグル。最初は珍しい名前と容姿だなんて思っただけ。でも、映像を見る内に私の心は高鳴った。時に可愛く、時に勇ましく、その一挙一動に心奪われてしまったのです！

ああ、あの黒い髪に触れてみたい！

あの黒い瞳に見つめられたいっ！

あの素敵な唇で名前を呼んでもらいたいっ！！

いっそのこと、私自身を食べてもらいたいっ！！！！

寝ても覚めても頭の中はアザミスグル いや、スグル様のことばかり。たまらなくなった私は、魔王としての仕事をすべてアグムさんに押し付けて、親友のアモネを連れてスグル様の尾行と観察を始めたのでした。つまりっ、私は俗に言う 愛の戦士<sup>ストーカー</sup> になったのですっ！

ちなみに、そんな私の装備品はというと、左手に超望遠レンズ装着済みの最高級カメラ、右手には超高性能の指向性集音マイク、胸ポケットには盗聴器の受信機があり、耳には受信機から伸びたイヤホンです。アモネには映像カメラを任せています。

どうですっ！？ 完璧でしょう！！

さあ、今日も観察開始です！

ここはラズベルト公国領内にある惑いの森。スグル様御一行はその森の少し開けた場所で昼食を作っていました。作っているのはスグル様と一行の女魔術師のアイーシャ。微妙な良い雰囲気には立ちは隠せない。

どうにか飛び出してアイーシャを殺してしまわないように自分を抑えつつ　アモネにもどうとたしなめられました　マイクを向けます。

『うわっ、スグル、手際良過ぎよ……。あたしがいる意味なんてないんじゃないの？』

『そういうアイーシャは不器用過ぎだよ。卵が割れないってどういうことさ』

そう言っスグル様は苦笑い。  
ぐふっ。

ああっ、なんですか、なんなんですかその素敵な表情はっ！？  
殺す気ですか？　殺す気ですねっ！？

思わず鼻血で噴水してしまう所でした。

愛の戦士　になつて良かったと心底思います。

にしてもあのへっぽこ魔女め、スグル様に近づきすぎですよ。  
なおも盗聴しているとこんな会話が聞こえていました。

『そっいえばアイーシャ』

『何？』

『最近さ、誰かに見られてるような気がしてならないんだよね』

『ああ、それはわかる』

『それに、毎朝起きると宿の部屋にあるテーブルの上にさ、無くしてた僕の私物とすみませんって書かれた紙と、いくらかのお金が置かれてるんだよね……』

『えっ……ちよっ、何それ』

私はそれ以上、会話を聞くことなく、隣を向きます。

そこには今まさに逃げんとするアモネの姿。

「こらこら、そこなアモネさんや。何をしているのかな？」

私はできる限りの笑顔でアモネを呼び止めます。

肩を大きく震わせて、ゆっくりと振り向くアモネ。その顔はこれでもかというくらいにひきつってます。

「えーっと……その………ちよ、ちよっとトイレに行こうかなー、なんて……」

「言いたいことはそれだけか。」

【ロッキランサー】「

「理不じ　っー!」

岩の槍でぶっ飛ばされるアモネ。

やれやれ、私の物に勝手なことをすからだ。

それにしても、スグル様の手料理か……。食べたいな……。

よし、今度はスグル様の手料理だ！

決意も新たに、私は再びスグル様観察に精を出す。

（後書き）

いかがでしたか？

正直、自分でもやまなしみなしおちなしな気がしなくてもありません。

でも実は結構気に入ってたり……。

まあ、何にせよ面白いと思っていただけたら幸いです。

それでは、また。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8285f/>

---

魔王マオちゃんの勇者様観察記

2010年11月13日14時39分発行